

## アルボウイルス感染症の発生予察調査手法の開発

研究期間	平成 29 年度～令和元年度
課題番号	2904
研究実施機関	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構(動物衛生研究部門)
研究概要	<p>家畜の異常産等を引き起こす節足動物媒介性ウイルス感染症(アルボウイルス感染症)については、平成 10 年以降、その流行を予察するため、都道府県の協力の下、アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症、イバラキ病及び牛流行熱の全国的な検査を実施しています。</p> <p>このような中、平成 27 年には鹿児島県において同県では昭和 63 年以来となる牛流行熱の発生が確認されるなど、病原体を媒介する節足動物の生息域や生息時期の変化により、病原体の多様化も含めアルボウイルス感染症の発生状況が変化してきていることが懸念されています。</p> <p>このため、発生状況の変化等に対応した的確なアルボウイルス感染症の発生予察調査手法を早急に開発するとともに、調査結果を迅速に生産現場で活用できる体制を構築しなければならない状況にあります。そこで、アルボウイルス感染症の新たな発生予察体制を確立するため、生産現場における発生予察調査の具体的方法、調査結果の収集・分析方法及び分析結果の生産現場へのフィードバック方法を開発するための研究を実施しました。</p>
研究成果の概要	<p>家畜の異常産等を引き起こす節足動物媒介性ウイルス感染症(アルボウイルス感染症)について、発生状況の変化等に対応したより効果的・効率的な監視システムを構築するため、アルボウイルス感染症の発生予察調査手法について検討し、今後のアルボウイルスサーベイランスの方向性に関する提案書を作成しました。また、発生予察調査の結果を収集・分析・還元するシステムを開発しました。</p>
行政における研究成果の活用方針(令和 2 年 11 月時点)	<p>令和 2 年度中に実施する家畜の伝染性疾病に係るサーベイランス検討会において、アルボウイルス感染症の新たなサーベイランスの枠組みを報告後、令和 3 年度のサーベイランス体制に反映する。</p>

(注) 研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載